

ひと

素敵なあなたと



おかだ ゆうじ
岡田 雄二さん

人形用造花職人 さいたま市緑区在住
54歳 好きな食べ物 煮物 和食

人形の背景として欠かせない造花。その魅力は季節を問わず楽しめる美しさと職人さんの巧みな技ではないでしょうか。造花職人の岡田雄二さんにお話を伺いました。

創業85年の造花工房「岡半」は、岡田さんの祖父、半蔵さんの名から名づけられました。二代目の一人息子として生まれた岡田さんにとって、工房は遊び場だったそうです。小さい頃

飾り方に変化はあっても花はかわりません。その中で新しいスタイルを考えて行くのはとても楽しい作業だそうです。「踊りの先生の注文で、その舞い姿を藤人形にしたものもあります。床の間などに飾れる造花にもチャレンジしています」と言う岡田さんの作品は全て手作り。近年、パーツを輸入し、組み立てるだけの工房も多い中、材料の染付けから組み立てまでを「岡半」の工房でこなしている。「なかなかないけれど、思うような形になった時はそりゃあ、大満足。でも一年も経ってその作品を見ると恥ずかしくなる(笑)。作り手なんですよ」。

岡田さんが残念に思うことは伝統や季節の行事が商売先行になっていくことだそう。季節の変わり目を大切にして気をつけたいというのが節句。例えば、雛の節句。綺麗だから人形を飾るのではなく、子どもの災いを転嫁してもらいたいという願いが込められている。そして、おまじないとして雛飾りをつかっただけでなく、お稽古事や家庭の縁に繋がっている。飾るだけではなく対話してお節句を楽しんでほしい。

伝統を大切にする職人気質という古風な面と、柔軟でユニーク、チャレンジ精神を併せ持つ岡田さん。その作品どおり、場を華やかにする、明るい方でした。

(文・写真/高井ちえ)

もっと岡田さんを知りたくなったら「岡半」のホームページへ!

<http://www.7a.biglobe.ne.jp/~okahan/>

造花作りの工程や、岡田さんの作品が満載のホームページ。日常の中で見聞きした事柄がユニークな岡田さんの視点でつづられる「ちょっといい話~店主の独り言」コーナーはオススメです。お問い合わせもこちらからどうぞ。

